

あさひかわ菓子博2025を 開催して

第28回全国菓子大博覧会・北海道 実行委員長 水上崇

5月30日から6月15日まで、あっという間に過ぎた17日間、第28回全国菓子大博覧会北海道「あさひかわ菓子博2025」は大成功に閉幕しました。開催期間中、御来場の皆様、関係者の皆様には大きな事故もなく、無事に終了しました。また、公益財団法人日本豆類協会をはじめとする関連団体の皆様には大変お世話になり、ここに改めて御礼を申し上げます。

開催内容の報告をさせていただきます。開会式では、大雪クリスタルホールにて、本博覧会の名誉総裁である彬子女王殿下御臨席の下、400名以上の多くの関係者にご参加いただき、菓子博がスタートいたしました。その後、おおむね天候にも恵まれ、連日たくさんのお客様にご来場いただき、入場者数は、メイン会場の大雪アリーナで約15万人、全国スイーツマーケット会場で約10万人延べ入場者数は25万人となり、私たち実行委員会が想定した以上となりました。特に全国スイーツマーケットでは、目標売上3億円を遥かに上回る4億7千万円となり、長時間の入場待ち、品切れやレジ待ちでご来場の皆様にご迷惑をおかけしている場面もありました。

全国から出品された90作品の工芸菓子は、どの作品も素晴らしいもので、来場された方々は興味を持ち、子どもたちが目を輝かせて観覧していたことが印象に残っております。心配していた温度や湿度に弱い工芸菓子が、最終日まで崩れることなく展示できたことは、北海道のこの時期に開催できたことが幸いしたと、ほっとしております。

全国で販売している一般菓子の審査で、上位を受賞した約300品の菓子の展示は、来場者の目を引くもので好評であったと感じております。

メイン展示である大型ドームで上映した菓子原材料の宝庫、北海道と菓子作り、お菓子に関わる人たちの笑顔をテーマとしたプロジェクトマップは、上映終了と同時に拍手が起こり、多くの来場者から感動と幸福感に包まれたと喜びのコメントをいただきました。

大手メーカー7社による体験型パビリオン、スイーツファミリーランドでは、お子様連れの家族を中心に連日大人気となりました。

北の台地グルメエリアでは地元菓子店のお菓子が大集合したモグモグマー

ケットやソフトクリーム販売、北海道の食材を生かした飲食ブース、キッチンカーなどが軒を連ね、来場したお客様の憩いの場として賑わいました。

大雪ステージでは日替わりで、各都道府県菓子工業組合のPRやお菓子の無料配布、地元高校生による書道パフォーマンスや吹奏楽、テーマソングを作ったアーティストの生演奏など、毎日会場を盛り上げていただきました。

菓子博の公式キャラクターであるシマエ大福は人気となり、着ぐるみが登場すると、子供から大人まで写真撮影の人だかりができる場面が、何度も見られました。そのほか、協賛各社様の展示ブースや公式グッズショップ、菓子博関連商品があたるモンスターカップセル、笑顔と平和を願い全国から集められたお菓子の包装紙で作った折り鶴の展示、会場全てが今回の菓子博に欠かすことができなかったものと感じております。

お菓子の力でみんなを笑顔に地域を元気に、を目指して開催してきましたこの菓子博。きっと皆様の笑顔、元気につながったものと信じております。

菓子博に関わった、菓子団体、公益財団法人日本豆類協会の方々及び協賛企業、地元の企業や団体、ボランティア、運営スタッフの皆さん、会場近隣の住民や、店舗施設の方々、3年間の準備開始から閉幕まで一緒に作り上げてきた実行委員会メンバー、そのメンバーの頑張りを陰で支えていただいたご家族や従業員の皆様へ心より感謝し、実行委員長としての挨拶といたします。本当にありがとうございました。



展示された工芸菓子の一つ



全国スイーツマーケット



公式キャラクター「シマエ大福」



会場配置図